

令和元年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「創造性豊かな世界市民」の資質を育む
学校運営	本年度、文科省SGHの研究開発期間は最終年度となる。世界平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を育てていくため、これまで取り組んできた地球的課題の探究を軸とする「世界市民教育プログラム」をさらに充実させてまいりたい。まず教員自身が日々の研鑽と人間性練磨に励み、生徒たちの「主体的・対話的で深い学び」を推進してまいりたい。また創立以来の教育指針でもある「校訓」を諸活動の根幹に置き、価値創造の教育実践を重ねるべく、以下の目標達成に注力してまいりたい。

2. 教育活動における重点項目

〔1〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. 「主体的・対話的で深い学び」による授業を全教科での推進
2. 探究型総合学習GRITの生徒満足を増進
3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)
4. 情報リテラシーの向上とタブレット活用機会の増進

〔2〕「可能性」の育成のために

1. 平日2時間以上の家庭学習している生徒の増進
2. スタディサブリを活用し、成績アップさせた生徒の増進
3. スタディサブリを活用し、学力を向上
4. キャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進
5. 名作・長編の読書運動に年間通して挑戦したという生徒数の増進

〔3〕「心」の育成のために

1. 創立精神学習の深化と実践
 - a. 「校訓」を学び実践する機会を設ける
 - b. アーカイブを活用した「リーダー育成講座」の開催
2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養
 - a. 「多様性」の尊重を培い、「人間教育」を推進するプログラムの実施。
 - b. 教員と生徒、クラス・学年を越えた対話の促進。

【自己アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和2年2月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを学び、環境問題に関する企業の取組。物を買うときのフェアトレードの仕組みなどの国際課題に関心をもった。 ・人権問題の探究活動を通し、「相手を尊敬する心」が芽生えた。 ・グローバルな平和問題を学習し、「無関心という暴力」ではいけないと感じた。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを見事に使いこなしている。 ・協同して探究活動している。 ・生徒は、SGHの取り組みを通し1年ごとに成長しているように感じる。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングなど効果的な手法について学び、自身の授業に取り入れた。 ・論理的に考えられるようになった。 ・発表能力やリサーチ能力が格段に上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関西創価の教育理念である「いのちの尊厳」を基盤に、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」取り組みをリードしていただきたい。 ・英語教育の一層の強化をしていただきたい。また、英語だけでなく、高校時代から第2外国語を学んでほしい。 ・グローバルな視野とともに、その土台としての人間教育に取り組む関西創価に期待したい。 ・SGH後の取り組みの1つとして、世界市民教育プログラムで、ユネスコスクールとの連携を推進していただきたい。

【分析】

GRIT(探究型総合学習プログラム)が定着し、SGHの5年間で、「育てたい力」が明確になった。「リサーチ能力」「発表する能力」「協同する力」が向上し、目標として掲げてきた「共感力」「問題解決への創造力」が育った。自走できるGRITを通して、更に教育力を高めたい。

【学校目標の主な総括】

	今年度の重点目標	取り組みの内容	評価	改善点
主体的・対話的の授業の取組で深い学び	各授業において、「主体的・対話的で深い学び」の授業(アクティブラーニング)を推進する。 80%以上の教員の実施を目標とする。	オープンクラスウィークを設定し授業実践の相互交流を行い、教員間で触発しあう。 校内外での研修に積極的に参加し、教育技術を高める。	2019年度は全授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいる。 評価A。	各個人がスキルアップを目指し、種々の研修に取り組む。授業公開のテーマを明確にし、教育力の向上を目指す。
G R I T 総合学習	保護者会等の機会を通じGRITの発表の場を作る SGHのメインプログラムである探究型総合学習GRITの充実を目指す。 グローバルイシューへの関心度80%を目標とする。	1年次、GRITで探究基礎を学び、UPクラスの参加をすすめ、世界の諸問題に関心を持つ生徒を増やす。 2年次、大学教員の前でプレゼンテーションし、発表力を伸ばす。また、下級生にポスターセッションを通し、全員が発表力を伸ばす。 3年次、学年全体で模擬国連を開催し、全員が各国の大使となり自国の課題解決に向けて他国の大使と交渉し、1つの結論を導く取り組みをした。	グローバルイシューへの関心度は目標を達成。SDGsを知るだけでなく学び考え行動に移せたことが大きな進歩となった。 評価A。	国際課題への関心度はほぼ達成できた。「探究」におけるパフォーマンスは達成できたが、評価方法を研究する。SGH後も自走ができるプログラムを開発する。
英語受検の育成と推進	国際課題解決に必要な力として、英語力の育成に取り組み、学力向上を目指す。 CEFR(B1以上)の力をつけた生徒を50%以上にする。	チームティーチングや少人数編成の授業できめ細かに指導した。 放課後に英検対策補習を実施した。	2019年度は、57%と目標値を上回った。100名以上の生徒が準1級へ挑戦した。 評価B。	入学後の早い時期から英検受検を推進していく。 明年度の目標も50%とする。
キャリア教育の充実	受験指導の充実 進路指導部主催のキャリア教育を更に充実させる。 国公立大学、難関私立大学の50名以上の合格者をを目指す。 海外の大学進学10名以上を目標とする。	受験クラス担当者会の実施 入学時にキャリアデザインのセミナーを受講し、キャリアデザインマップを作成する。学年の終わりに振り返りをした。 学びの振り返りを行い、自分自身を伸ばすことに挑戦した。 海外大学、大学院を卒業した英語科スタッフがサポートしアメリカ創価大学だけでなく海外大学進学に挑戦した。	2019年度は、30名が国公立大学、64名が難関私立大学、9名が医学部に合格、また16名が海外大学に進学した。 評価A。	海外大学進学の指導体制は確立しているので今後も継続する。 明年度の海外大学合格者の目標は10名以上とする
生徒の可能性を育成	スタディサプリの活用とともに日々の自主的な学習を推進をする。	放課後の各種補習(アドバンスやベシック)、キャリア教育、また導入されたスタディサプリの有効的な活用例を紹介した。	平日2時間以上の家庭学習の定着には個人差が大きく、時間管理の指導が必要。 評価B。	部活動の時間検討や時間を工夫して使う学習などを推進する。 手帳や学習記録などを使い、自主的な学習時間を増やせるよう研究する。 明年度も1日2時間以上の家庭学習について50%を目標とする。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	達成度評価	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動・実践における重点項目	[1]「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために	1. 「主体的対話的で深い学び」による授業を全教科で推進	全教員を対象にして研修を実施 授業・GRITにおける探究の実践と展開	A	主体的対話的で深い学びの授業導入が、全教員で取り組めた。研修会を実施し、教員の意識の啓発を図った。 →校内研修の充実。校外での勉強会にも積極的に教員を派遣。さらに高いレベルを目指す。探究型授業の研究。
		2. 探究型総合学習GRITの生徒満足を増進	校内の環境フィールドワーク／蜚の学習／アースカムプロジェクト体験口 貿易ゲーム／持続可能な開発目標(SDGs)学習口 人権学習／世界人権宣言学習口 核軍縮交渉シミュレーション口 グループでのまとめ・プレゼンテーション	A	SGHの取り組みとして、全校生徒で実施するGRITの学習やグローバル・シチズンシップセミナーを通して、世界市民として必要な地球的課題探究への意識・関心が高まった。 →教員自身の研鑽を継続。 さらに視野を広げ、これまでにない分野にも目を向けたい。Find! アクティブラーナーを利用し、教員のスキルアップを図る。
		3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)	TOEIC講座の充実／検定試験受験補助 創大留学生を招いてのグローバル・キャンプの実施 多読教材の整備・拡充と活用 タブレット用教材ソフトの導入 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場 SGH海外フィールドワークを実施	A	グローバルキャンプやSUA教職員との懇談会、SUA留学生との交流等、英語学習への動機づけの機会を多くもつことができた。 英語検定試験受験への補助によって受検者が増加した。 これに伴い、英検合格者数も飛躍的に増加し、高校3年卒業時に学年の57%が英検2級レベルの力をつけた。目標の50%は、達成した。 海外フィールドワークにより、更に語学に対する関心が高まった。 →授業の充実とともに対策講座の継続。各級の合格者を増やす努力をさらに重ねる。
		4. 情報リテラシーの向上とタブレット活用機会の増進	情報リテラシー教育の実施 教師・生徒のタブレット活用の実施と促進 全員にタブレットを貸与。	A	ICT委員会が主導して、全校生徒全員のICT環境を整える。 →タブレットを活用した授業の展開。授業に役立つアプリの活用・研究。家庭学習への活用。使用上のルールの徹底。
	[2]「可能性」の育成のために	1. 平日2時間以上の家庭学習している生徒の増進。	SPのBasicコース開講 各教科における日常的な問題集の活用 スタディサプリの日常的な利用の推進。 授業・家庭学習での活用。	B	英語科・数学科をはじめとする教科できめ細かい指導を継続的に行っている。放課後のSPで家庭での学習に取り組む生徒が増えた。まだまだ努力が必要だが、スタディサプリの継続導入により、タブレットを活用した反転学習の拡充に取り組む。 →スタディーサプリの活用し反転学習の具体的な実践を継続する。
		2. スタディサプリを活用し、成績アップさせた生徒の増進	SPクラス(Advanced Math・Basic Math)の実施 SPクラス(Advanced English・SUA English)の実施 授業の振り返り、予習の利用を推進。	B	放課後に実施したSPクラス(生徒のニーズに応じた講座)で学力とともに進学実績も向上した。 UPクラスを開講、大学レベルの学問にふれることができ学習に対する意識が大いに向上した。 →放課後に実施することで、リーダー育成講座をはじめとする諸行事と重なり、生徒の活動に影響が出るため、実施方法を検討する。新カリキュラムの編成とも関わる課題となり、講座と放課後の諸活動の整理ができつつある。 学年を絞り、参加者数が増加した。
		3. スタディサプリを活用し、学力を向上	1年次から3年次の夏まで、5回の学力到達度テストを実施 到達度テスト後、結果に基づき個別に課題克服の指導を実施。 2年次9月と3月に創大推薦模擬試験等を実施	B	スタディサプリ実施により、基礎学力に関する課題を個別に把握が可能となり、より効果的な学習指導ができた。実際にテストの点数・学習時間ともに向上している。 →個別の課題についての学習指導を徹底し、継続する必要がある。
		4. キャリア教育をもとにキャリアデザインが明確になった生徒数の増進	キャリアガイダンスの実施(1・2年次) 適正診断の実施(1年次) 創大研修での講義受講(2年次) 弁護士による人権講座を実施 医歯薬実務者との懇談会	B	今年度は、創価大学研修でのキャリアデザイン講座を2年生が受講したことに加え、創価大学キャリアセンターより講師を招いて、入学時に新入生対象のキャリアデザインの講座を開催し、キャリアデザインマップの作成に取り組みした。また、学年の終わりにマップの更新ができた。 →志望校・志望学部を選択や将来の職業選択がより具体化するよう、努力を続ける。
		5. 名作・長編の読書運動に年間通じて挑戦したという生徒数の増進	朝読書の実施と充実 「図書館に行こうDay」を毎月開催 「Book-Navi Day」での教員からの良書を紹介 ビブリオバトルによる生徒参加型の読書の推進 各種読書コンクールへの応募推進	A	「Book-Navi Day」で教員が推薦図書を紹介していることや図書館のさまざまな工夫で図書館利用の頻度は高まっている。 名作駅伝、ビブリオバトルなど生徒主体の読書推進活動も定着。読書感想文コンクールをはじめ、各種コンクールで多数の入賞者を出すことができた。 →良書に親しむ生徒の率も増加した。
	[3]「心」の育成のために	1. 創立精神学習の深化と実践	リーダー育成講座を実施 アーカイブを活用	B	入学式、卒業式等に頂いたメッセージなどを学習する機会をもち、リーダー育成講座を通じ、創立の心を学ぶ。 →リーダー育成講座が生徒の啓発の場となり、草創の心を学んだ生徒が、リーダーとして活躍した。
		2. 「多様性」の尊重と「共感力」の涵養	探究学習の中で多様性を学ぶ機会を作る。	B	総合的な学習の時間で行うGRITで、世界市民として必要な資質である「多様性を尊重する心」を育て、「共感力」を涵養する探究の時間を実践した。 →持続可能な開発目標アジェンダ2030を学習し、何ができるかを考え、生徒が実践できることを計画立案する。